

条幅部自由参考

1月25日正午必着

明石春浦先生書

茶の花になほ初春の日和かな

細雨寒燈初夢短、
断猿枯木一聲長

（阿波野青畝）

明石幸子書

茶の花になほ初春の日和かな

細雨寒燈初夢短、
断猿枯木一聲長

（楊萬里）

茶の花になほ初春の日和かな
細雨寒燈初夢短、
断猿枯木一聲長
（楊萬里）

枯木の林からは時折り声長く猿のなくのが聞えて来る。
寒燈の下に細雨をききながら寝ると夢も長く結ばれない。

綠水紅蓮一朶開千草無顏色

緑水紅蓮一朶開 千花百草無顏色 (白居易)

緑色の水の中、紅い蓮がひとつ開けば
すべての草花が顔色をなくす。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

冬來幽興長 (唐 庚)

遠水帶レ烟 爭_ニ晚色 (尹延高)
西風挾_ニ雨 作_ニ寒威

冬來つて幽興長し。

遠水烟を帶びて晩色を争い、
西風雨を挾んで寒威を作す。

冬になつて物静かな興趣はつきない。

争は先を争う、いそぐ。見はるかす水面にはもやたちこめて
夕暮のよそおいをいそぎ西風は雨を伴つて寒さをいやします。

早春

(司空団)

傷_レ懷 仍客處 病_レ眼 却花朝
草嫩 侵_レ沙短 冰輕著_レ雨消
風光知_レ可愛 客鬢不_ニ相饒

早春 (司空団)
瘞_レを傷りて仍_レお客処す 眼_レを病んで却_レつて花朝なり
草_レは嫩くして砂_レを侵して短く 氷_レは軽くして雨_レを着して消ゆ
風_レ光_レ愛_レす可_レきを知るも 客_レ鬢_レ不_ニ相饒_レさず

早晚 丹丘伴 飛_レ書 肯_レ見_レ招

早晚 丹丘の伴 書を飛ばして肯て招かれん

1月25日正午必着

ふと見れば 時計とまりをり 元日のあかつぎにして 見れば可笑しき

(若山 牧水)

半紙部規定課題A

1月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

1月25日正午必着

行書

隸書

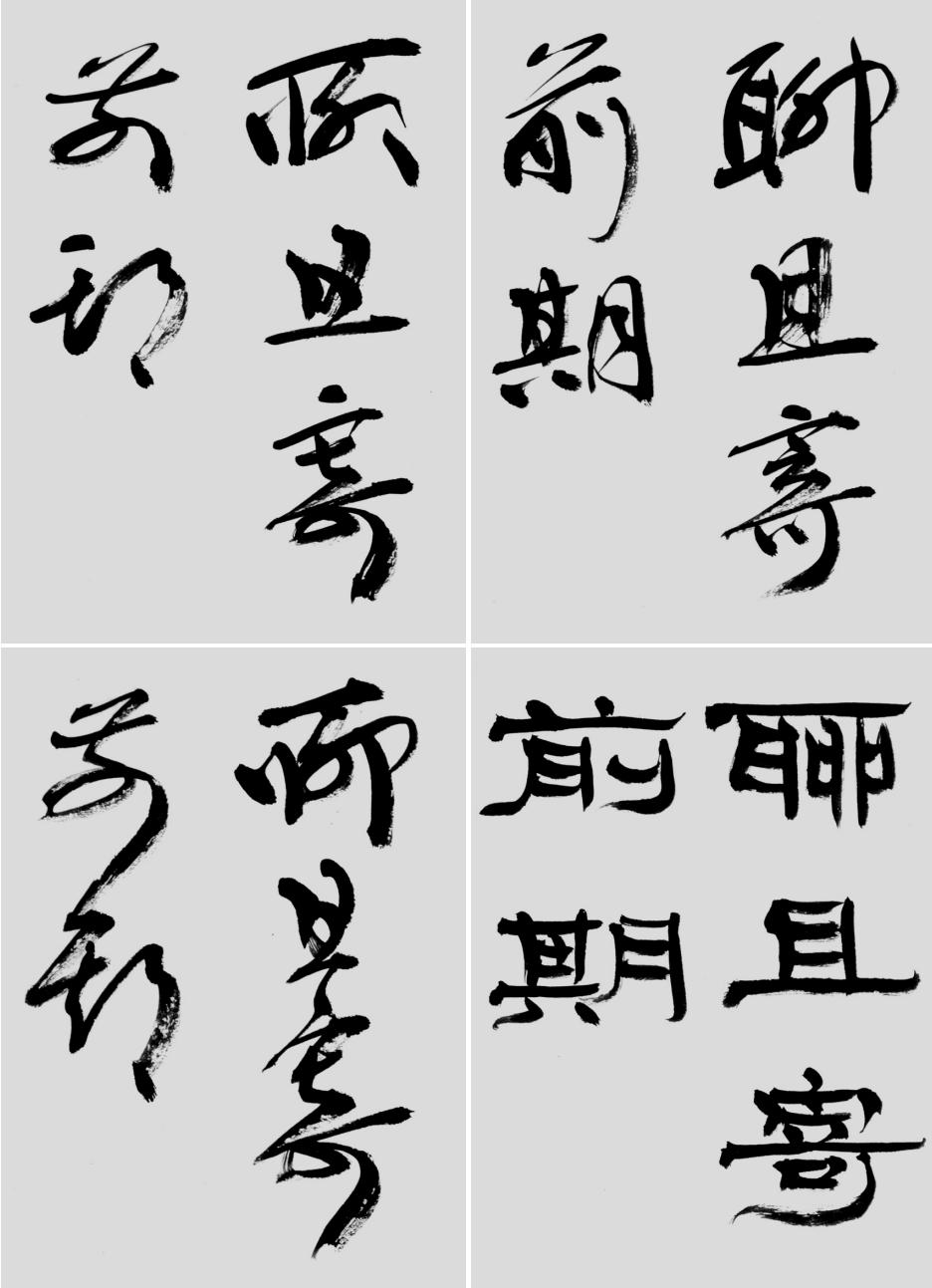
明石春浦先生書

早行寄朱放
戴叔倫

戴叔倫

山曉旅人去
天高秋氣悲
明河川上沒
此別又千里
芳草露中衰
少年能幾時
心知剡溪路
聊且寄前期

早行
朱放
戴叔倫



早行
朱放
戴叔倫

山曉
旅人
去
天高
秋氣
悲
明河
川上
沒
此別
又千里
芳草
露中
衰
少年
能幾
時
心知
剡溪
路
聊且
寄前
期

早行
朱放
戴叔倫

山曉
旅人
去
天高
秋氣
悲
明河
川上
沒
此別
又千里
芳草
露中
衰
少年
能幾
時
心知
剡溪
路
聊且
寄前
期

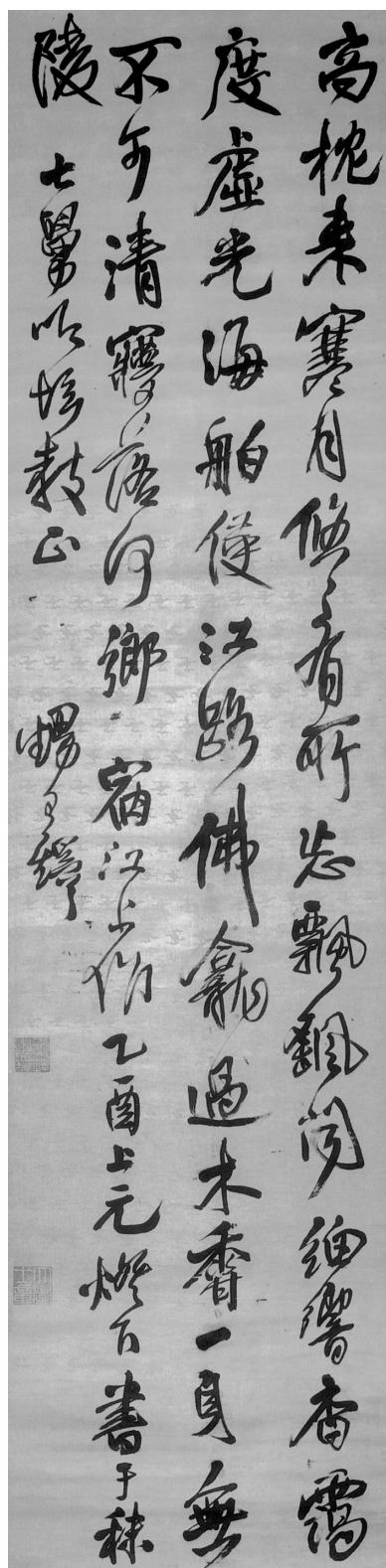
草書

行草書

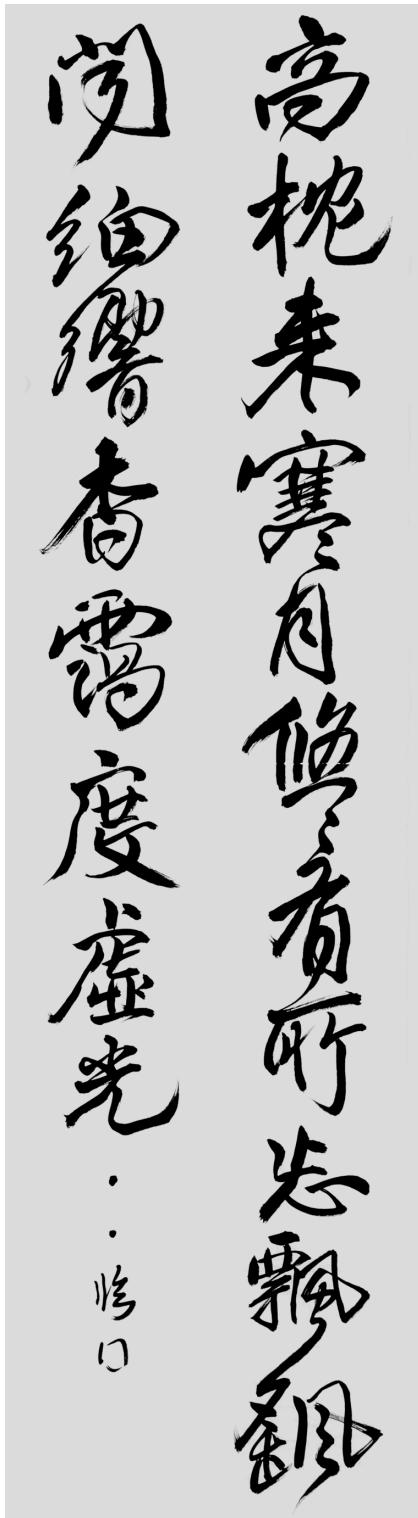
山中に夜は明け初め、旅人は去つて行く 空は高く、ものがなしい秋のけはい
地上の川に映じていた天の川はすでに消え去つて かぐわしい草はつめたい露の中に衰えてゆく
いまここに別れて、またも千里のかなたに赴くのだが 若さというものはいつまでも保てるものではない
君の住む剡渓への道がはつきり心に浮ぶ いささか将来の約束をお届けてしましよう

(出典)
朝日新聞社刊
〔三体詩〕下より

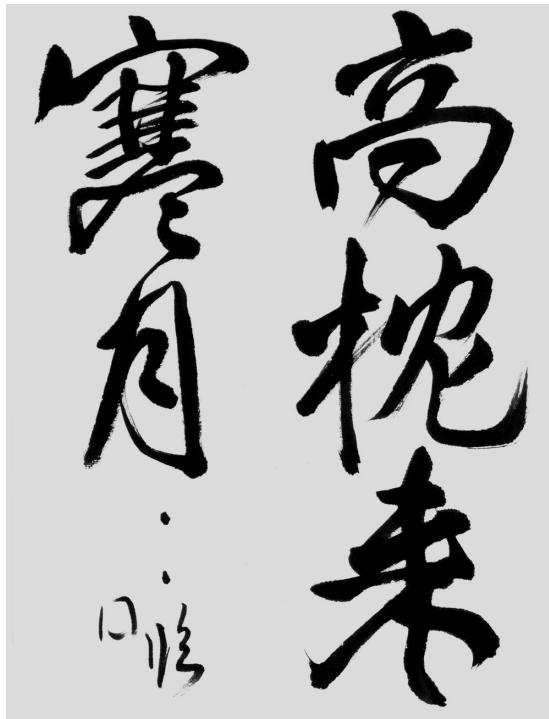
条幅部半紙部臨書課題



高枕來寒月。悠悠有所忘。飄颻聞細響。杳靄度虛光。海舶侵江路。佛龕過木香。一身無不可。
清夢落何鄉。宿江上作。乙酉上元燈下。書于秣陵。七舅吟壇教正。甥王鐸。



高枕來寒月。悠々有所忘。飄颻聞細響。杳靄度虛光。



明末清初
王鐸・宿江上作

王鐸は明の萬歴二〇年（一五九二）河南省孟津に生まれる。明朝末期の天啓二年（一六二二）に進士となり、明が滅亡した後は清朝に仕え、「明史」編纂の副總裁などをつとめた。順治九年（一六五二）礼部尚書となつたが、その年の三月病のために郷里で没した。字は覺斯（または覺之）とも書いた。号は嵩樵、癡庵、五岳道人など数多い。明朝の遺臣でありながら清朝に降つたことによつて節義に欠ける者として白眼視されたが、彼のような唯美の世界に耽溺した人間としては、そうしたことにはだららず自由な行動をとつたのではないかといわれている。

明末から清初にかけては政治的にも社会的には民族的にも混沌とした時代で、書壇においても革新的な傾向におもむきつつある時期であった。そして、そうした中から董其昌や王鐸らを中心として伝統的な書道からはなれ、新しい理念に基づく書の美しさを求める風潮が生まれた。

王鐸は詩文書画をよくしたが、なかでも書は特に名高く、二王を中心とし晋唐の古法帖の臨書に終生心血を注ぎながら、彼独自の自由闊達な連綿行草の世界を作りあげていった。この宿江上作は王鐸五十四歳の作で、彼の長尺幅作品の中でも比較的連綿が少なく、行の動きもおさえ気味で、行書中心の作であるが、強く重厚な線や切れ味鋭い線を織り交せて、変化のある字形で構成されていて、見る度に引き込まれていくようである。

1月25日正午必着

教育部毛筆



中学一年

雨宮春聲先生書



中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



心

眼

小学五年

榎戸 春龍先生書



初

春

小学六年

横川 春川先生書

1月25日正午必着



天

下

小学三年

藤田幸春先生書



宮

中

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



え

び

小学一年・幼年

明石幸子書



人

形

小学二年

森戸春濤書

1月25日正午必着

教育部 硬筆

ペン字部

新しい年をむかえ心
構えを新たにしよう

小学五年

初日にかかるやく海に
新たな希望をいたぐ

小学六年

私は正直であることを
生活信条としています

中学

黒い煙を吐きながら汽
車が雪原を走ってゆく

一般(級位)

降る雪のやまけを事
新一年の始まり今

一般(段位)

あらた
しき 年の始
の初春の
今日降る雪の
いや重しよ
吉事(大伴家持)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ひや
とい
つたこ
たちち
べどを
たこ

幼年

と手
あくろを
かす
い、る

小学一年

つ元
も日
うのあ
にさ
い
くは

小学二年

ら東
かわのま
初日
か
さくど
すか

小学三年

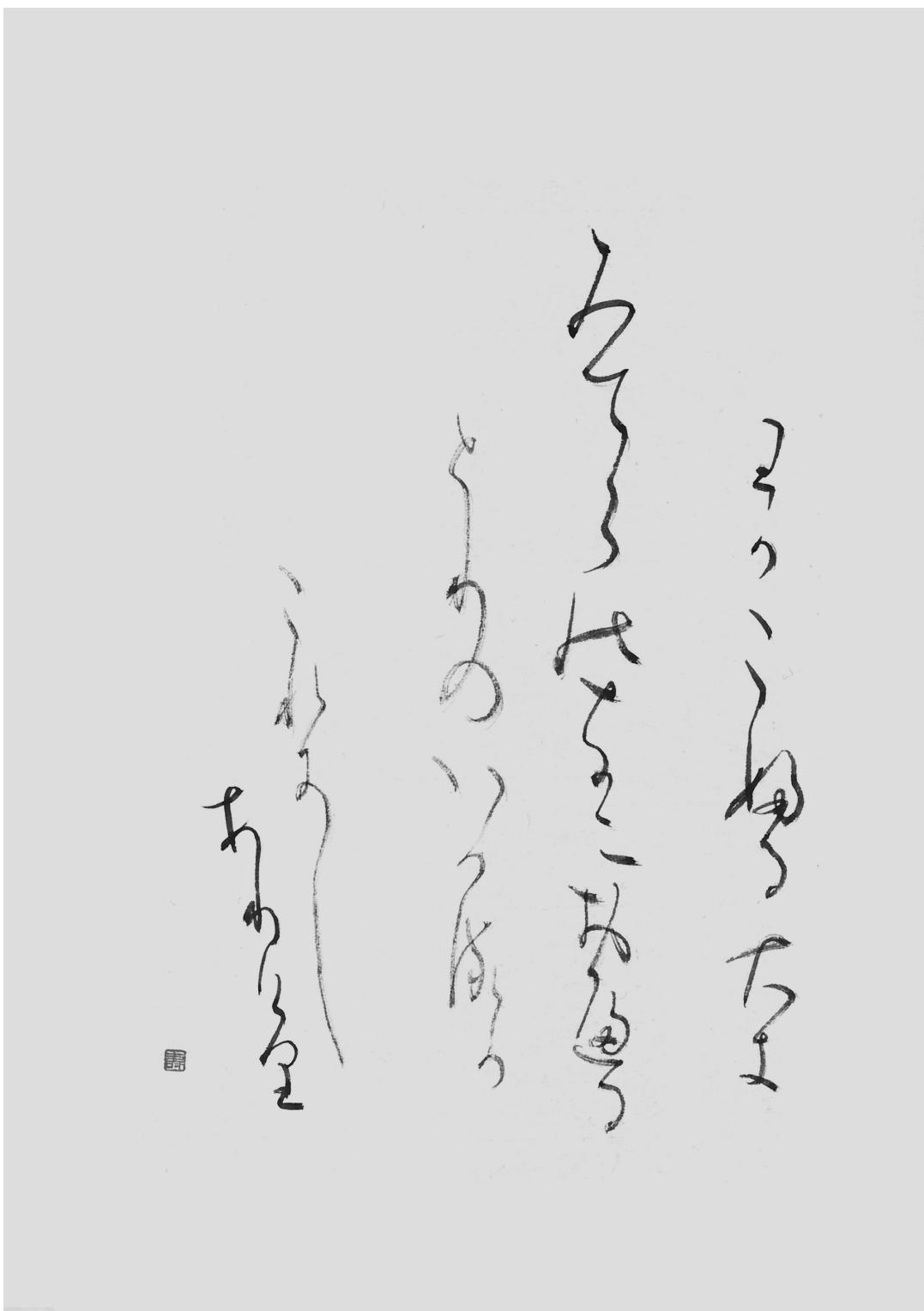
お年玉はゆうびん
きよくに貯金する

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

1月25日正午必着



岩本景楓先生書